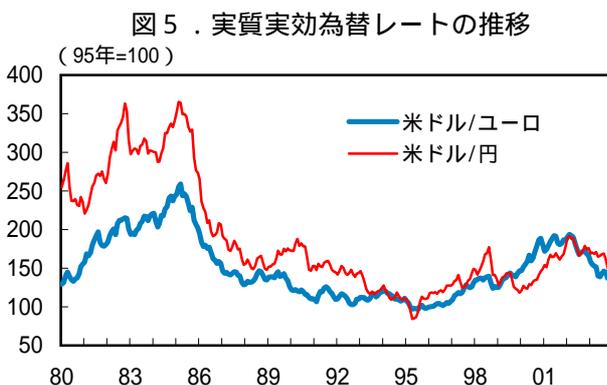
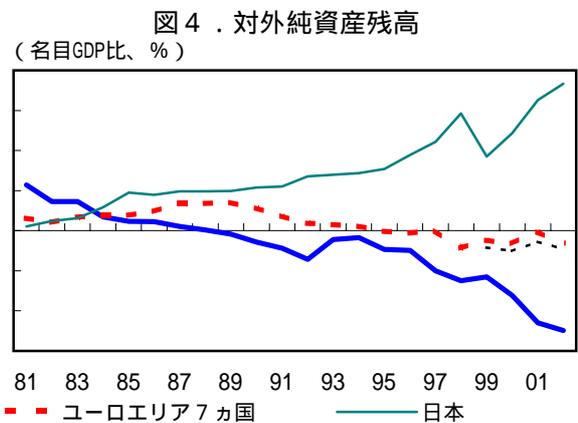
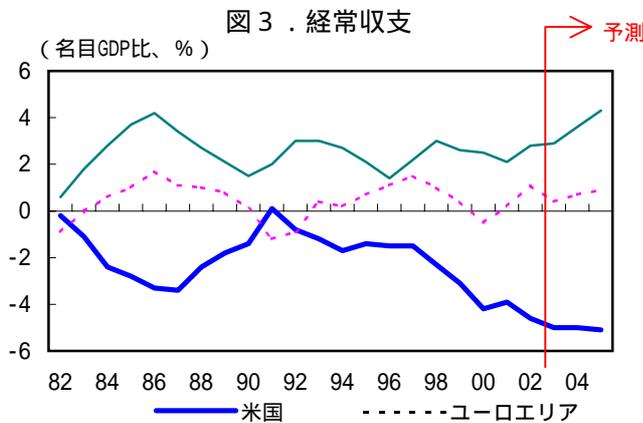
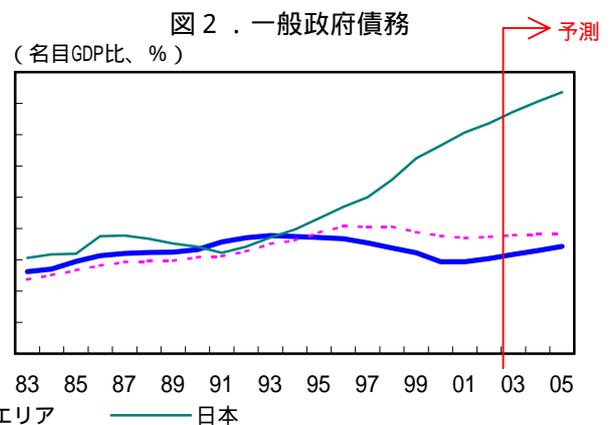
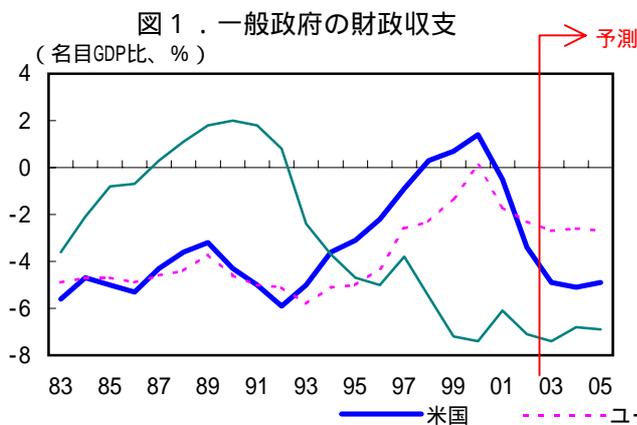




## 米・欧・日の為替のファンダメンタルズ比較

- ・米ドル、ユーロ、円について、為替を決定するファンダメンタルズと考えられる要因のうち、自国（地域）政府の財政構造、経常収支、対外資産負債バランス等について整理した。
- ・財政収支については米国の赤字幅が2000年以降急拡大しているのが目立つが、収支・残高ともに米国とユーロエリアは同程度であり、水準としては日本の財政状況の悪さが際立つ。
- ・一方、経常収支については、米国の赤字が慢性的であり、さらに近年赤字幅が歴史的にみても高水準となっている。この赤字が累積した結果、80年代に純債務国に転落していた **米国の累積債務残高は拡大を続けている。**
- ・実質実効為替レートの比較を行うと、ドル対ユーロ、ドル対円ともに低下したものの、99年～2000年とほぼ同水準にとどまっている。ただし、**上述の米国の経常収支赤字の拡大・累積に対する警戒感を反映し、ドル先安懸念は払拭されていない。**



- (備考)1.OECD「Economic Outlook67」、OECD「Economic Outlook74」、IMF統計により作成。  
2. 図1～3については、2003年以降は予測。  
3. 図4のユーロエリア7カ国は、ドイツ、イタリア、スペイン、オーストリア、フィンランド、ベルギー、オランダの合計。  
4. 図5は米ドルとユーロまたは円との比。  
5. 図1～4は暦年、図5は暦年月次。